

<第 25 回定期総会 社民党 福島みずほ党首 あいさつ>

どうも皆さんおはようございます。紹介していただきました、社民党党首、参議院議員の福島瑞穂です。退職者連合第 25 回定期総会、本当におめでとうございます。退職者連合の総会に参加することは本当に大好きです。何故かものすごく力をもらい、とても元気になります。今日もまたお話をして元気をもらい、いっしょに頑張りあいたいと思います。

社民党、全国各地で皆さんたちに大変お世話になっていることに、まずは冒頭お礼を申し上げます。ありがとうございます。そして、退職者連合は例えば 2010 年の政権交代の時に、後期高齢者医療制度反対というのすごく頑張ってください、いっしょに頑張ってください政権交代のまさに立役者になったと思っております。そして、最近も政策制度要求の中に様々な的確な要求を盛り込んでいただき、予算委員会、厚生労働委員会などの中で政策に生かし、いっしょに頑張りあっているという風に思っております。

また、先ほど議長からもありましたが、ジェンダー平等、退職者連合の政策要求の中には、かならず高齢者女性の貧困問題や女性の問題が入っているんですね。とても大事なテーマに、女性たちが、退職者連合が取り組んでくださっていることに心から敬意を表します。現役時代に各地の労働運動、地域運動、社会運動、平和運動などに携わり、退職者連合としてさらに地域で頑張っている皆さんたちに、心から感謝と敬意を申し上げます。

3 点、安倍政権、菅政権、自民党政権の問題を簡単に申し上げたいと思います。安倍政権、菅政権、コロナ対策後手後手。あまりに後手後手、あまりにけちけち、あまりにとんちんかん、あまりに支離滅裂です。

去年、安倍総理がアベノマスク、小さなマスクを配る。菅総理は「goto キャンペーン」をやります。国民の命と暮らしを守ることが政治なのだ、という認識なくして政治をやっているという風に思います。だから、本当にこれを変えたいと思います。

女性による女性のための相談会や、年越し大人食堂、派遣相談会やさまざまな相談会に、私自身も弁護士で実際に相談も受けました。仕事がない、お金がない、住まいがない。地面の底が抜けるような、本当にそんな人たちを見てきまし

た。雇用調整助成金の交渉を厚生労働省でやっている、先が見えない、貯蓄を取り崩している、そんな人たちに本当に会ってきました。

この政治を変えたい。衆議院選挙がありますが、生存のための政権交代。生きさせろ、生きていてくれ、と。こんな政治に任せていては、私たちの命も子供たちの命もみんなの命も守れない、そんな風に思っています。

さきほど会長から、「オリンピック、パラリンピックやれるのか？」と。「まさに命が一番大事じゃないか」というごあいさつがありましたが、まったくその通りだと思います。

二点目です。新自由主義が止まりません。小泉構造改革から始まる労働法制の規制緩和や社会保障の切り捨てが止まりません。病床削減はコロナの前からやってきた。でも、去年2月から今年の2月まで、なんと2万床以上病床を削減しています。結核病床も、どんどん削減をしています。この間の通常国会では、病床削減することを消費税を使って奨励する、そんな法律さえ成立しました。

なぜこのコロナ下で病床削減なのか、あべこべだと。どっち向いて政治やっているのか、と思います。社会保障を切り捨てる、これを本当に変えていきたいと思えます。公的病院、公立病院再編統廃合、これも厚生労働省がリストを撤回しません。医療インフラを壊していく、こんな政治を変えたいんですね。

新自由主義から社会民主主義へ。アメリカのバイデン政権、もちろん問題もありますが、富裕層に対する増税、法人税を上げると。どうやって税を取りどう配分するか、やはり社会民主議的な価値を政策に入れ込まない限り、国民の命が守れない。このことは世界でもはっきりしてきたのではないか。

日本で新自由主義が変わらない、これを社会民主主義にかえるべく、社民党もたくさんの人たちと全力をあげたい、そう思っています。

三点目。恫喝と排除と弾圧の政治が本当に進んでいます。国会の中で、デジタル庁関連法案、重要土地規制法案、改憲手続き改正法案、様々な法律が成立しています。なぜ、基地から1キロメートルにいる人たちみんなが調査の対象になるのか、原発や基地を監視する立場の住民がなぜ監視されるのか、本当にあべこべじゃないかと思っています。この、監視、弾圧、そして排除、この政治を変えたいんですね。そうでなければ人権は守れない、そう思っています。

世界の中で、たとえばフィンランド。34歳のサンナマリンさん。社民党の党首ですが、首相になった時こういいました。「すべての子供が自分のなりたいたいものになることができ、すべての人の尊厳が守られる社会を作りたい」。その通りだと思います。それが社会民主主義だと思います。でも、どうでしょうか。日本では、自分がなりたいたいものになる、子供たちが挑戦することすらむずかしい、そんな社会です。だから変えたいんです。

衆議院選挙がまちがいなく、おそらく10月にあるといわれています。これで本当に政治を変えたい。そうしなければ、私たちは命を守ることすらできない、と思っております。本当に頑張りたいと思っております。どうか、今まで頑張っておられ、今も頑張っておられる皆さん、一緒に力を合わせて頑張りたい。社民党への力をぜひよろしくお願い致します。

社民党は、「弱音をはける社会へ、答えは現場にある、変えるって楽しい」、こんなポスターを作りました。いつから日本は、弱音を吐けない社会になってしまったのか、なぜこんなに自助と言われるのか、そして、公助がなぜかくも弱くなったのか。

この社会をいっしょに、政治を変えたいと思っております。退職者連合の皆さんたちの、ますますのご活躍と頑張りに心から期待を申し上げ、いっしょに変えようと申し上げ、心からの連帯のごあいさつといたします。

いっしょに頑張りましょう。よろしくお願い致します。